

令和7年度学校評価最終報告書

学校名 (四季が丘小学校)

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	日数	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
	・基礎・基本の徹底と学習意欲の向上	・基礎・基本の問題の繰り返し学習 ・めあて、まとめ、評価の一体化	・学力定着状況調査 全国平均以上	+2以上	—	+0.7	35%	D	<p>廿日市市学力定着状況調査では、全国平均と比較し、国語科で-0.15、算数科で+1.6であった。</p> <p>国語科では、基礎の部分で全国平均を下回る学年が多く、言葉を正しく捉えていないため、正確に文章を読み取ったり記述したりすることに課題があると考ええる。</p> <p>算数科では、今年度の取り組みの成果で、図形領域の伸びが見られた。特に、低中学年が力を付けており、算数用語の理解や作図などに重点的に取り組んだ成果と捉えている。</p>	<p>全体的に落ち着いて学習に向かっている。なぜそう思ったのかなどを自分の言葉で説明できるアウトプットができる児童を育成していつてもらいたい。国語辞典を引いたり、読書をして、その感想を伝えようなどしたりして、基礎学力の定着を図ってもらいたい。</p>	<p>国語科では、ICTを有効活用し、言語や漢字の定着を図るなど語彙力を高める取り組みを行う。また、校内で読書の推進を図り、児童がより多くの文章に触れる機会を増やしていく。</p> <p>算数科では、縦の系統を意識しながら指導を行い、計算力を付けることや算数用語の理解の徹底に努める。低学年では、具体物の操作を積極的に取り入れていく。</p> <p>両教科とも、フォローアップタイムなどで全学年の復習を取り入れるなど、基礎学力の定着を図る。</p>
<p><確かな学力></p> <p>・「主体的対話的で深い学び」の実践</p> <p>・「学びに向かう姿勢」「自己有用感」の育成</p>	<p>◎学びに向かう姿勢の育成</p> <p>・特別教育の視点を効果的に活用した授業づくり</p>	<p>・「学びに向かう姿勢」を育む算数科の授業改善</p> <p>・主体的な学びを伸ばす個別最適な学びの場の工夫</p> <p>・授業研究の充実</p>	<p>・「算数科の学習をもっと続けてやってみたいと思う」児童の割合</p> <p>・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」児童の割合 【小中共通項目】</p> <p>・「算数科の指導で見通しをもたせて行うことができた」教師の割合</p>	85%	72%	71%	84%	B	<p>「算数科の学習をもっと続けてやってみたいと思う」児童の割合は、中間を1%下回った。2学期は、「児童も教師もわくわくする」授業づくりを行うために、校内研修でわくわくする単元計画を設定し、自己選択・自己決定の場の設定の仕方について学び、授業を行った。ただ、2学期末には、学期末ということもあり、単元を終わらせるために教師主導で授業を進めてしまい、児童に自己決定・自己選択をさせる機会や見通しを十分に持たせることが出来ない授業が増えたことが、数値が減少した原因だと考える。</p> <p>「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」児童の割合は目標値を達成した。単元計画をもとに見通しをもたせ、自己選択の場を設定したことが、児童の安心につながると共に、児童の意欲を高めたと考ええる。教師側も見通しを持たせられたと実感しているので、今後は、「わくわくする授業づくり」に向けて、更なる授業改善が必要である。</p>	<p>算数を好きだという児童を増やすために、これからもワクワクする単元作りを行ったり、生活に根差した授業作りを行ったりしてもらいたい。また、特別支援教育の考え方を生かし、単元計画の提示や時間の構造化・黒板の色チョークの使い方など工夫を常にを行い、児童に安心感を与え、楽しい授業作りに繋げていって欲しい。どの学級でも当たり前に行われるようになる必要がある。また、正解を求めるだけでなく、児童同士の交流の中で具体的に自分が説明することで、誤った認識を正していくように指導をしていって欲しい。</p>	<p>算数科における主体的な態度を育てるため、生活経験に根差した課題や児童の興味関心に基づいて「児童も教師もわくわくする」授業の単元名や単元設定を引き続き行う。単元の中でどのように自己選択・自己決定を行うか等を計画に織り込み、定期的に教員間で簡単な授業実践の交流を行い、研究の風土を高めていく。</p> <p>また、安心して学習できる環境を作るため、単元の始めに児童と単元計画を共有し、児童に見通しをもたせる。さらに、ICTを活用して他者参照できるようにしたり、話し合い活動で意見交流する機会を取り入れたりするなどして、協働的な学びとしていく。</p> <p>児童の基礎学力の定着を図るために、教師が算数用語を正しく使い系統的に指導していくことや、低学年のうちから具体物操作をしっかりと行い、イメージ化を図ることで、児童の行方考え方の育成をする。また、既習事項を掲示することで、何をどのように使って解決するのかを児童に意識させるようにしていくと共に、スモールステップで「わかった」「できた」の体験を積み重ね、児童の自信につなげていく。</p>

評価計画					自己評価					学校運営協議会	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析	委員評価 コメント	
<p><豊かな心></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他のよさを認め合い、友達と協働しながら、共に高まり合う児童の育成 ・自己有用感の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範、規律、礼儀の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・四季小三大名人(挨拶、靴そろえ、右側歩行)の指導と評価の徹底 ・月に1度のあいさつ運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分から進んであいさつができる」肯定的評価の児童の割合 	90%	87%	88%	98%	B	<p>あいさつの肯定的評価は、88%で目標値を下回った。あいさつ名人の表彰は、児童にとって意欲付けにはなっており、その結果進んであいさつをする児童層が維持されていると考える。放課後には、6年生による「さよならあいさつ運動」を行ったり、6年生が主体となって四季っ子三大名人の動画をとったりして活動を行った。</p> <p>あいさつができない児童について、今後、学級を巻き込んだのあいさつ運動を行うなど更なる取組が必要である。</p>	<p>気持ちのよい挨拶の指導は、まずは型を教え、心の挨拶へと繋がる。挨拶を自分からする児童と、されたら返す児童に分かれている。知らない人に挨拶をするのは、今の時代抵抗があるのだから、大人が自ら挨拶をし、子ども達の規範となるようにしていきたい。</p>	<p>運営委員会や6年生を中心に、動画で良いあいさつのモデルを示したり、各学級を巻き込んだあいさつ運動を行ったりするなど、進んであいさつをしようとする児童の気持ちを育てていく。あいさつ名人の表彰は引き続き行うことで、児童の意欲向上につなげていく。</p>
	◎自他のよさを認め合う仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自治的活動の充実 ・学級や縦割り班での良いところ見付けの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童の割合【小中共通項目】 	85%	78%	78%	92%	B	<p>自己有用感の肯定的評価の数値は、78%と目標値を下回った。運動会や学習発表会では、ペア学年のよいところを伝える機会を設けた。また、学級での「よいところみつけ」、運営委員主催の校内探検ツアーを縦割り班で回る取組を行った。今後は人の役に立つとはどんな行動か当番活動等を例に児童に伝えていく必要がある。</p>	<p>係活動や掃除など、皆のために自分が役立っているのに、数値が低いのは、自分が頑張ったことが言語化できていないからだと思われる。教師や友達との相互評価と共に自分の頑張りを振り返らせる機会を作してほしい。</p>	<p>学級で児童が役割を果たした場面を認めたり、よいところ見付けを一定期間行ったりする等、学校全体で取り組んでいくことで、自己有用感の向上につなげていく。また、教職員が児童の良いところや頑張りを認め、「ありがとう」の気持ちを伝える取組を継続的に行う。</p>
<p><健やかな体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力の向上と基本的な生活習慣の確立 	◎基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの分析と体育科授業の質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋の握力の比較、伸びた児童の割合 	80%	69%	58%	72%	C	<p>「運動するのが楽しい」と感じている児童の割合が9割を超えている。体育科の授業で、児童が楽しく体を動かすことに加えて、多様な“できる”を保証した授業づくりをしていることがこの結果につながったと考える。また、四季が丘小学校セットメニューを作成し、単元内容につながる運動遊びを授業の冒頭に取り入れられるようにした。</p> <p>児童の縄跳びへの関心をもたせ握力の向上につなげることをねらいとした「長縄祭」を行った。多くの児童が参加し、楽しく活動することができた。握力向上にはつながらなかった。</p> <p>握力の結果が正しく測定できていない可能性も考えられる。</p>	<p>楽しみながら運動を行う取組はとても良い。長縄祭などの楽しい取組を色々と企画してほしい。</p> <p>握力については、最近では便利なグッズがあるので、それらを活用して「握力コーナー」を作ったり、握力を競うような取組を考えたりして、児童が楽しんで活動を行えるようにしていきたい。</p>	<p>体育科の授業では、楽しみながら、“できる”を保証する工夫を継続していく。また、運動が苦手な児童にも運動の楽しさを感じさせられるような工夫が必要。運動学習を通じた友達との関わりを楽しむを見出させる授業づくりを行っていく。</p> <p>握力の向上については、「握る・つかむ」動きを取り入れた授業を工夫するとともに、日常生活や家庭でも取り組める指先運動を紹介していく必要がある。</p> <p>握力の測定の仕方に関わらず、新体力テスト種目の正しい測定の仕方を教職員間で周知・徹底する必要がある。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・「運動をするのが楽しい」肯定的評価の児童の割合 	80%	89%	91%	107%	A			

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
<信頼される学校> ・働き方改革の推進	・業務改善を通じた学校組織の活性化の推進	・行事、活動の見直し、精選	・子供と向き合う時間が確保されていると感じる教師の割合	80%	87%	87%	109%	A	放課後の連絡会の回数を減らし、校務DX化を推進したことで放課後に教材研究や成績処理等の時間を確保したことが成果である。学年で分担しながら授業準備を行ったり、過年度の資料を活用し反省を生かしながら活動を行ったりすることで時間を生み出している。しかし、授業準備や校務分掌等、様々なことを勤務時間内で行うのは厳しい現実もある。	小学校も中学校もDX化を行っている。子どもたちにとって必要な行事と、縮小したらよい行事を見直し、先生方が楽しく子どもと向き合う時間の確保をしていってもらいたい。	校務DX化により、情報の共有が行いやすくなったことで、業務改善につながっている。さらにICTのよりよい使い方を模索し、校務の効率化を図っていく。また、今年度の反省を生かし、必要な行事と縮小したらよい行事などを考え、来年度の計画を立て、実行していく。信頼される学校の指標については再考する。
・コミュニティ・スクールの推進	・地域と共にある学校づくり	・地域学習の充実	・地域と連携したふるさと学習を全学年1回以上行った割合	100%	83%	100%	100%	A	約87%の児童が「地域や社会をよくするために何かをしたい」と肯定的な回答をし、2.8%上昇している。全学年において年間を通して計画的にふるさと学習を行ったことや、四季っ子応援団の方々をはじめとする地域の方が一緒になって活動して下さる姿から子どもたちが学んでいる成果であると考え。四季っ子の地域の一員としての自覚が芽生えてきているので、今後も活動を継続していく。	子どもたちが地域のために何かをしたいと考えてくれているのはとても嬉しい。地域と学校が一体となって地域を盛り上げるためにも地域イベントなど、先生や児童に積極的に参加してもらいたい。	来年度は、総合的な学習の時間のカリキュラムを四季っ子応援団や市民センター、関係機関と共有しながら、ふるさと学習の充実を図っていく。また、児童が、地域の一員として、自分たちに出来る事を考え、実行できる学習活動を仕組んでいく。

※ 計画書・中間報告書に上書きしてもよい。

※ 参考資料があれば添付すること。